

教育研究業績書

2017年10月20日

所属：看護学科

資格：教授

氏名：藤原 千恵子

研究分野	研究内容のキーワード
小児看護学, 家族看護学	親, レジリンス
学位	最終学歴
博士 (臨床教育学)	武庫川女子大学大学院博士後期課程

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
1. 母子看護学、小児看護学第2版	2007年3月	小児看護学のテキストとして作成し、小児期に罹患しやすい疾患の主な症状と経過および治療の特徴とその看護のポイントをわかりやすく解説した。担当は、小児の主な感覚器疾患の病態生理を含む症状や治療の特徴と、主な疾患の観察ポイントや感覚障害の場合の看護のポイントについての執筆と全体の監修である。た。本人担当部分：『12. 感覚器障害』の執筆及び全体編集
2. 母子看護学、母子看護技術Ⅱ小児看護技術第2版	2007年3月	小児看護学のテキストとして、小児看護で用いる看護技術を網羅し、その技術を用いる必要性和実施する際の注意事項や観察事項を具体的に学べるように解説した。担当は、『12. 喀痰喀出』『13. 酸素療法』『17. 救急処置』の執筆および全体編集である
3. 母子看護学 小児看護学 病態生理・疾病論	2006年9月	小児看護学の副読本として、小児期に罹患する疾患の病態生理、症状、治療、経過・予後などの医学的知識を系統的にまとめた。それらの知識が看護過程を考えるうえで、どのように活かすのかを具体的に解説した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 子どものPTSD	共	2014年5月	診断と治療社	子どものPTSDの特徴とレジリエンスについての概念やアセスメントの視点、予防的対応について概説した。本人担当分：『子どものPRSDよレジリエンス』(p. 190-197) 編集：友田明美、杉山登志郎、谷池雅子
2. 小児のメンタルヘルス	共	2010年9月	中山書店	病気の子をもつ親に生じるストレスの特徴とストレス緩和の対応について論説した。本人担当部分：『患児の親』(p. 240-246) 監修・編集：及川郁子、草場ヒフミ
3. 実践へつなぐ看護技術教育	共	2006年9月	医歯薬出版	小児看護における看護技術教育を、初期の実習段階から卒業後実践段階の段階的な教育のあり方を論説した。本人担当部分：「8. 小児看護学における展開」(p. 37-40)(p. 98-104) 編者名：阿曾陽子、奥宮暁子、鈴木純恵
4. ウェルビーイングの発達学	共	2003年4月	北大路書房	子どもが病気になることによって生じるストレスの特徴と周囲への影響、緩和するための対応を解説した。本人担当部分：「第4章第2節 病気によるストレ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
				ス」(p.24-27) 編著：祐宗省三
2 学位論文				
1. 入院中の病児家族のストレス・コーピングに関する心理学的研究	単	2002年3月	武庫川女子大学大学院 博士論文（臨床教育学博士）	全国の小児科病棟を有する病院のうち、研究協力の得た病院の小児科病棟に入院する子どもの親を対象に、質問紙調査を行い、親のストレス尺度、コーピング尺度の開発を行い、ストレスやコーピングに影響している要因を分析した。
2. 父親の養育行動に影響を及ぼす要因の研究	単	1995年3月	武庫川女子大学大学院 修士論文（臨床教育学修士）	父親の役割認知と養育行動の特徴と影響要因としてのセルフ・エフィカシーと母親の父親に対する期待の観点から質問紙調査を行い分析した。
3 学術論文				
1. The Impact of Resilience and Key Life Event Experiences	単	2015年4月	日本健康医学学会雑誌	地域の3歳半健診を受ける子どもの母親を対象に育児ストレスに対するライフ・イベント体験と育児関連レジリエンスの影響を明らかにすることを目的に、自記入式質問紙法を行った。96名の母親から回答を得て、母親の年齢が高い場合、レジリエンスが高い場合に育児ストレスが低くなることが示された。また、離婚や配偶者の入院がレジリエンスを低める要因になっていた。以上の結果から、育児ストレスの軽減をめざす支援策には、ライフ・イベント体験を考慮し、レジリエンスを高めるような視点が有効であると考えられた。
2. 口唇裂・口蓋裂の専門医療機関における母親への看護実践の質的分析—看護師によるアセスメントとアプローチ—	共	2015年4月	日本健康医学学会雑誌	口唇裂・口蓋裂の治療を行っている専門病院での看護経験の豊富な看護師11名の面接調査から、母親に対する看護についての語りから、母親の心理状態をアセスメントする視点とその時のアプローチを抽出し、母親の心理状態に応じたケアのあり方を質的分析した。共著者名：藤原千恵子、柴 枝理子
3. 小児看護学実習に対する看護師の認識と影響要因—看護師の認識の因子構造と妥当性—	共	2015年3月	大阪大学看護学雑誌	小児看護学実習を受け入れている178箇所の病棟の看護師833名を対象に、実習に対する認識37項目を因子分析し、6因子を抽出し、命名した。6因子は構成概念妥当性および内容妥当性が確認できたが、信頼性は、5因0.77であったが、1因子のみ0.55と低くなっていた。共著者名：木村涼子 藤原千恵子、高島遊子 新家一輝、林みずほ 植木慎悟 藤田優一、北尾美香
4. 転倒・転落防止オリエンテーションDVD「入院されるお子様の転倒・転落事故防止に関するお願い」を視聴した家族の意見および転倒・転落防止に関する理解度の変化	共	2014年9月	兵庫医療大学紀要	6施設の入院児の家族136名を対象に、転倒・転落防止オリエンテーションDVD「入院されるお子様の転倒・転落事故防止に関するお願い」を視聴した家族の意見および転倒・転落防止に関する理解度の変化を明らかにすることを目的に、質問紙調査を実施した。転倒・転落防止に関する注意事項12項目において、DVD視聴後理解度が高くなっていた。共著者：藤田優一、湯浅真裕美、二星淳吾、藤原千恵子
5. 一時的ストーマ造設患者の配偶者のレジリエンス	共	2014年9月	日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌	一時的ストーマ造設患者の配偶者5名の面接調査から、配偶者のレジリエンスをGrotbergの3枠組みを用いて質的分析し、個人の内面の強さに5カテゴリー、周囲からの支援8カテゴリー、対処する力6カテゴリーが抽出された。配偶者は患者のストーマケアに主体的に参加することで、配偶者のレジリエンスを高めることが示唆された。共著者：新田紀枝、石澤美保子、宮野遊子、佐竹陽子、前田由紀、田中寿江、奥村歳子、上谷千夏、石井京子、藤原千恵子
6. Effectiveness of aromatherapy in decreasing maternal anxiety for a sick undergoing infusion in a paediatric clinic	共	2014年9月	Complementary Therapies in Medicine	地域の小児専門病院を受診し点滴治療が必要となった子どもをもつ母親121名を対象に、ユズののアロオイルを施行した点滴室に60名と何もしていない点滴室に61名を無作為に入室してもらい、子どもの点滴施行の前後にSTAIを用いて母親の不安を測定し、不安の差異を比較分析した。両群の母親と子どもの背景要因は同質であり、アロマセラピーを実施した母親群の不安が対照群より軽減していることが確認できた。共著者名：植木慎悟、新家一輝、宮野遊子、木村涼子、駒井かずよ、村上清隆、藤原千恵子
7. 地域において育児支援が必要な母親に対するトリプルPの効果	共	2014年5月	日本看護学会論文集	大阪府下のI保健センターにおいて育児困難を抱え保健師の支援を受けている母親11名に対して、トリプルPのグループセッション（全8回）を行い、1～7回のセッションに出席できた8名の母親を分析対象に、トリプルPの効果を明らかにした。実施前後で、母親の子どもに対する認識や子育てスタイルが変化し、母親のうつ症状や不安、ストレスが軽減し、トリプルPが有効であると判断できた。共著者名：山田純子、藤原千恵子、石井京子、宮野遊子、藤本美穂、
8. 小児看護学実習を受け入れている病棟の現状と課題	共	2014年3月	大阪大学看護学雑誌	全国の小児の病棟のある病院のうち、小児看護学実習を受け入れており、研究協力で承認が得られた小

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
9. 育児関連レジリエンス尺度の開発	共	2014年3月	日本小児看護学会誌	児の病棟178施設の看護師長を対象に調査を行い114施設（回収率81.5%）を分析した結果、受け入れ学生数や日数に大きな差があり、多くの病棟で複数の学校を受け入れていた。実習指導者は学生指導に専念している者は少なく、業務と兼務していたなどの受け入れ状況が明らかになった。 共著者名：宮野遊子 木村涼子 林みずほ 植木慎悟 新冨一輝 藤原千恵子
10. 熱性けいれんの子をもつ母親のけいれん時の対処行動と心理的状況	共	2014年3月	外来小児科	大阪府下の保健センターの3歳児健診に訪れた親330名を対象に質問紙調査を行い、回収された97名を分析した結果、独自に作成した育児レジリエンス尺度の有効性を検証し、3因子の27項目で構成され、信頼性および妥当性を確認できた。共著者名：宮野遊子、藤本美穂、山田純子、藤原千恵子
11. 思春期の胆道閉鎖症患児の対処行動	共	2013年12月	小児保健研究	近畿地区の16箇所の小児科診療所を受診した、熱性けいれんの既往をもつ6歳以下の子どもの母親を対象に質問紙調査を行い、135名から回答を得た内、105名を有効回答として分析した結果、熱性けいれん時の母親の対処行動は、過去のけいれん目撃体験の有無や熱性けいれんの子どもの存在、熱性けいれんの回数に影響を受けていることを明らかにした。熱性けいれんを体験した母親は強い不安があり、けいれんの知識が冷静な心理状態に影響していることを明らかにした。共著者名：北尾美香、藤原千恵子
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
学会及び社会における活動等				
年月日	事項			